抄録本文

表　題（和文）	上顎無歯顎患者に即時荷重型インプラント治療を適用した５年経過症例
副　題（和文）	
演者名（和文）	江俣壮一
所　属（和文）	東京形成歯科研究会
表　題（英文）	5 year follow-up after an immediate loading procedure in the edentulous maxillae
副　題（英文）	
演者名（英文）	SOICHI Emata
所　属（英文）	Tokyo Plastic Dental Society

Ⅰ目的：上顎無歯顎患者にたいする待時インプラント治療は手術後，粘膜の腫脹による義歯不適合と疼痛ななど苦慮することも決して少なくない．今回、上顎が重度歯周炎のため抜歯を行い，無歯顎になった患者に 7 本のインプラントを支台として即時荷重を行い治癒期間を経て，最終補綴を装着し５年経過した症例を報告する．

Ⅱ症例の概要：患者は６０歳男性，2008 年５月，咀嚼困を主訴に来院した．既往歴，全身所見，に特記事項はなかった．初診時上顎すべての歯牙が根尖にまで及ぶ骨吸収が認められ,動揺度2度以上だった.36,44,46 も根尖にまで及ぶ骨吸収が認められた.患者にはこれらの歯牙が保存不可能であることを説明し,抜歯後の補綴治療において相談したところ,インプラント治療を選択した.基本治療ではプラークコントロール,抜歯 ,SRP,歯内療法,暫間補綴治療（治療用義歯 テンポラリークラウン）をおこない,上顎は抜歯3か月後インプラント体(Nobel Biocare社製 MkⅣ17 に直径 4mm×長さ 7mm,16 に直径 4mm×長さ 8mm,14 に直径 4mm×長さ 13 ㎜,12 に直径 4mm×長さ 13 ㎜,22 に直径 4mm×長さ 13 ㎜,24 にはOSEEOTITE Implant3/4 直径 3,25 ㎜×長さ 15mm,16 には MkⅣ直径 4mm×長さ 10mm,)を埋入した.その際,すべてのインプラント体が 35N 以上の初期固定を示したため,暫間補綴物を装着した.下顎においては 36 にOSEEOTITE Implant直径 4mm×長さ 10mm, 37 にOSEEOTITE Implant直径 4mm×長さ 8mm,44 にOSEEOTITE Implant直径 4mm×長さ 8mm,46 にOSEEOTITE Implant直径 4mm×長さ 10mm を埋入した.プロビジョナルレストレーションにより,咬合の安定をはかり最終補綴物を装着した.

Ⅲ経過：最終補綴物装着から３か月ごとにメインテナンスを継続しているが，インプラント部位には顕著な骨吸収やインプラント周囲炎等の異常所見は確認されず,現在SPTから 5 年経過しているが患者のプラークコントロールも良好で歯周病の再発もなく良好に経過してる.

Ⅳ考察および結論：無歯顎患者にとっては埋入手術後待時的な一定の治癒期間をとると，術後の腫脹や疼痛のため義歯装着が困難となり，摂食だけでなく，対人関係等にたいしても多くの問題点を抱えてきた．本症例は即時荷重後 5 年経過する現在も咬合が安定しており咀嚼機能回復を十分に得ることができた．よって無歯顎患者に即時荷重によるインプラント治療は臨床的に有用であり患者にとって機能的、審美的そして経済的にも有効な治療方法であることが示唆された．